

西東京市立中学校通級指導学級の通学区域(指定校)について

1. はじめに

西東京市では、市内の通級指導学級について、総合計画や教育計画、教育支援推進プランに基づき、個のニーズに応じた特別支援体制の構築を目指し、通級指導の充実に取り組んできました。

平成22年度には、市内1箇所目となる中学校における情緒障害等通級指導学級（K組）を田無第二中学校に開設しました。

しかしながら、昨今の指導対象生徒数の増加に伴い、施設環境に課題が生じていることから、平成30年度、新たに明保中学校に情緒障害等通級指導学級（K組）を新設し、更なる特別支援教育体制の充実に取り組めます。

2. 計画の位置づけ

以下の西東京市の計画に基づき、中学校通級指導学級の取組を進めます。

- 西東京市第2次基本構想・基本計画（平成26年度～平成35年度）
- 西東京市教育計画（平成26年度～平成30年度）
- 西東京市教育支援推進プラン（平成26年度～平成30年度）
- 公共施設の適正配置等を推進するための実行計画（平成28年度～平成30年度）

3. 中学校通級指導学級における課題

入級状況が安定してきた平成24年度から、約1.5倍に生徒数が増加しており、施設の状況などから適切な指導を行うためには、1学級25名程度を上限とした改善が必要となっています。

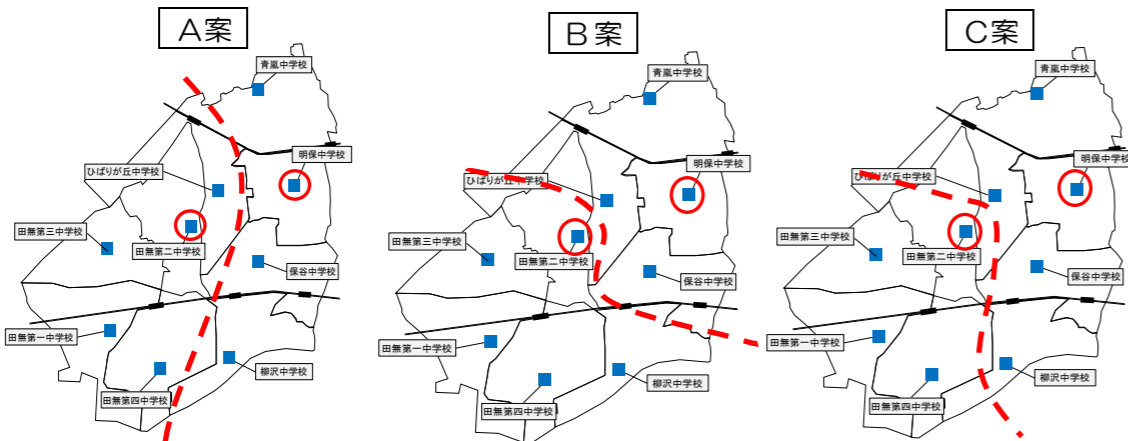
■田無第二中学校（K組）生徒数の推移 ※3月1日時点の生徒数

H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
5人	15人	22人	31人	31人	29人	32人

4. 通学区域(指定校)の検討

以下の3パターンをもとに検証を行いました。

- A案：バスの運行や道路環境など交通の利便性の観点から区分した案
- B案：市内の北側地域と南側地域を区分した案
- C案：旧田無地域と旧保谷地域を区分した案



5. 生徒数バランスの検証

「A案」「B案」「C案」ともに、大きな偏りはありません。将来的な生徒数の変動を考慮しても、「3 中学校通級指導学級における課題」で述べた1学級25名程度の上限に対し、すべての案が一定程度対応可能なバランスです。

6. 公共交通環境の検証

「A案」「B案」「C案」の通学区域を比較すると、柳沢中学校とひばりが丘中学校をどちらの指定校にするかが課題となります。

二つの指定校への通学環境をそれぞれ検証すると、柳沢中学校については、明保中学校へ路線バスを利用する場合、西東京市コミュニティバス「はなバス」を含め複数の経路を選択することができるため適当であると考えられます。

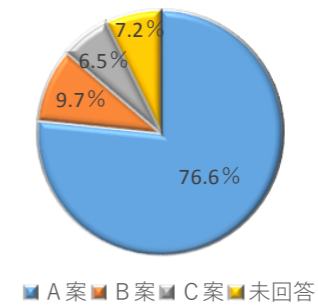
一方、ひばりが丘中学校については、両指定校ともに徒歩での通学が想定されますが、距離的な視点から、田無第二中学校への通学が適当であると考えられます。

よって、公共交通環境の視点からは、3案中「A案」が最も利便性が高いと判断します。

7. 保護者アンケート調査結果

- 調査対象 中学校通級学級に入級されている生徒の保護者
小学校の特別支援教室（L・S教室）に入室している児童の保護者
- 回答状況 配布数 193人 回答数 127人 回答率 65.8%

パターン	回答数	回答割合
A案	95人	76.6%
B案	12人	9.7%
C案	8人	6.5%
未回答	9人	7.2%

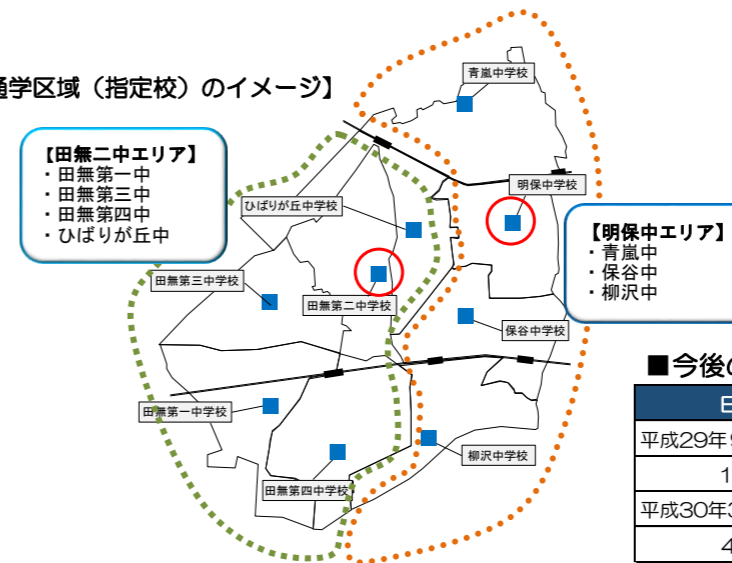


8. 新たな通学区域(指定校)について

以上の検証を踏まえ、生徒数のバランス、市内の公共交通環境、保護者アンケート調査結果等、総合的な視点から、平成30年度からの中学校通級指導学級の通学区域(指定校)は、バスの運行や道路環境など交通の利便性の高い「A案」とします。

なお、指導面については、田無第二中学校（K組）の指導内容を踏襲したうえで、両校が連携を図りながら、適切な指導体制を構築します。

【通学区域(指定校)のイメージ】



■今後のスケジュール

日程	内容
平成29年9月～1月	教室等改修工事
10月	全体保護者説明会
平成30年3月	学校保護者説明会
4月～	通級指導学級の開設

9. 生徒への配慮

既に田無第二中学校（K組）に入級している生徒については、環境の変化などによる影響を考慮し、田無第二中学校（K組）または明保中学校（K組）を選択できるよう配慮します。

また、医師の診断など、特別な理由により通学区域の変更を希望する場合については、教育委員会に申請のうえ、可否を審査するものとします。